

東靴協会の機関誌「とうくつ」が500号の発刊を迎えることができた。

資料によると、昭和53年4月1日に、この年度から協会独自の機関誌を発行することとなり、理事一般会員からなる広報委員会を設置しスタートしたそうです。誌名は一般からも募集をし、「とうくつ」となりました。

創刊号は昭和53年5月25日に発行し、一面の見出しが「あえて業界人の体质を問うー我々が生き残るために」となつていて百貨店や大型店舗のセールの問題を取り上げている。現在でも共通の点もあり、いつの時代も我々中小売店は厳しい環境の中で商売をしているのだと感じる。創

これまで夏期学校やレクリエーション事業、野球大会や海水浴、指定の厚生施設、さらに保険の共済会事業、シユーフィッター養成事業などを積極的に行ってきました。売り出し事業では「靴まつり」が大規模に開催されてきた。現在は「靴まつり」「靴の記念日」の2つの事業を展開している。

大型間接税（消費税）の導入反対運動もこの年に始まり、長い間反対運動が続いた。昭和59年には西村勝三翁の銅像が完成し地元佐倉で除幕式が行われた記事が掲載されている。

昭和61年度の新事業として、秋冬季の商戦情報を旧ジャスマック、その後アジアリングの水飼茂氏に長年にわたり仕入れ、ファッショング情報を探載いたってきた。今後、情報化が進む中、現状、本誌は毎月10日までに原稿を印刷業者に渡し、校正を経て印刷を行い、理事会で配

東靴協会の機関誌「とうくつ」が500号の発刊を迎えることができた。

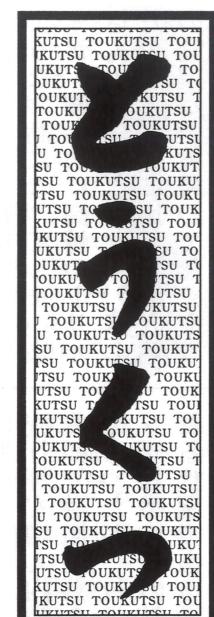
これまで今年の5月で46年目を迎える。

これまで大型店舗の台頭など厳しい環境の下で我々は商売を続けてきた。

平成18年の新年号（301号）誌よりそれまでB5版で発行していた本誌はA4版に変更。活字も大きくし読みやすく刷新した。

「とうくつ」創刊500号 今後の在り方を思ふ

昭和62年には日本シユーズ振興株式会社が設立され、靴の需要喚起のため、「シユーズ券」の発行がスタートした。そしてバブル崩壊をはじめ消費税の導入、輸入自由化による大型店舗の台頭など厳しい環境の下で我々は商売を続けてきた。



一般社団法人
東靴協会

千代田区鍛冶町1-6-17
〒101-0044 ☎(3252) 5656

(2月号)



数年検討を続けていた「シユーフィッター養成講座」を実施することとなり9月にスタートしている。なんと13名が受講し、定員を超えて予約をした、とある。

昭和62年には日本シユーズ振興株式会社が設立され、靴の需要喚起のため、「シユーズ券」の発行がスタートした。そしてバブル崩壊をはじめ消費税の導入、輸入自由化による大型店舗の台頭など厳しい環境の下で我々は商売を続けてきた。

更に会員の高齢化や店舗の減少で購読者も減少し、情報を伝えたい大手店舗等の現場の若い方には届いていないのではないか、などと思う。

(編集担当田中)



創刊号

発刊お知らせ版

この情報誌もデジタル化しての情報発信も考えるときにきている気がする。これまで続けてこられた「とうくつ」誌も読者の皆様をはじめ多くの皆様の協力があつたからと考えます。諸先輩方が長い間続けてこられた「とうくつ」誌形を考えてでも継続していくたいと考えております。

これまで各会員に配布すると、早くても約1か月後に会員の手元に届く。また、記事の内容も、かつてのように活発な協会独自の事業や支部活動も減少し、薄くなってしまっている。

この情報誌もデジタル化しての情報発信も考えるときにきている気がする。これまで続けてこられた「とうくつ」誌も読者の皆様をはじめ多くの皆様の協力があつたからと考えます。諸先輩方が長い間続けてこられた「とうくつ」誌形を考えてでも継続していくたいと考えております。

日本靴小売商連盟総会開催

令和6年1月29日午後1時30分より東靴協会・西村記念ホールにおいて、日本靴小売商連盟・第55回通常総会が開催された。



てしまい、我々小売店は商品の供給も難しくなつてきていますが、昨年くらいから、少しずつ取り戻してきたように思います。

この小売商連盟は昭和44年

2月4日に設立され、今回は55回目の総会となります。皆様にはこれまで、靴まつりを始め、各事業に多大なるご協力をいただきありがとうございます。これからも小売商連盟は皆様のご商売に役に立つよう頑張ってまいりますので今後ともよろしくお願ひいたします」と挨拶を行った。

続いて、定款により議長は会長が務めるがあるので、小堤氏に議長をお願いし、議事に入った。

始めに議事録署名人に議長より矢代健一氏と中野一雅氏にお願いしたいと提案し承認され、この二名にお願いした。

司会の松戸福治氏より開会に先立ち、本日の出席者10名、委任状10名により本日の総会の成立を報告した。

続いて栗原茂常務理事より開会の挨拶を行い、次に小堤幸雄会長より「新年からこのようなお話になつてしまいまが、昨年末に高崎のトリオさんが倒産してしまいました。思えばここ10年で婦人靴の間屋が数社続いて無くなつ

第一号議案 令和5年度事業報告並びに決算報告承認の件
事務局の松戸福治氏より資料に沿つて説明した。総括として、5年度は、感染症対策の進展を背景に、各イベント、旅行等も増え内需型の多くの業種で増加基調を辿る見通しであったが、後半インフルエンザ等感染症の拡大が懸念される状況である。また酷暑に

よりサンダル等のカジュアルは好調だったが、残暑が長引き秋冬物は厳しい状況であつた。とし、次のように事業報告の説明を行つた。

① 靴小売業の実態調査、従業員表彰、諸資料並びに情報の収集・配布事業
表彰者の報告と機関誌「とくつ」、皮産連の情報誌「ジェイリヤだより」の配布、各情報の発信配布を行つた。

第二号議案 副会長欠員の件 及び次期会長候補の件

続いて事務局の松戸氏より次の説明があった。副会長のトリオ様の会社倒産に伴い空席となつたが、定款では副会長は若干名となつており、現状では次期候補者が定まらずで承認された。また、小堤会長の任期が本年末までとなつており次期の会長は通例で東靴協会会長が務めるため、栗原氏にお願いしたい、と説明し承認された。

第三号議案 令和6年度事業計画案並びに収支予算案承認の件
事務局松戸氏より説明。

引き続いだ松戸氏より令和5年度の会計報告が資料に基づいて説明された。

○前各号のほか、目的達成のため必要と認める事項
以上資料を読み上げ説明した。統いて事業を推進するための予算案が提示され事務局

になり厳しい内容となつた。統いて須藤監事、青木監事、田中監事を代表し田中監事より監査報告がなされ、監査結果は收支報告書の通り相違ないことを認めた。

議長は一号議案について場内に承認を求め、異議なく満場一致で承認された。

靴小売り専門店としては、消費者のニーズを捉え、特色ある店作りや商品の提供、固定客を作る販売員のホスピタリティーを基本に、会員皆様のなお一層の努力を期待する。

から需要回復のもたつきで勢いを失つている。まだまだ厳しい販売状況が続きそうだ。とし、一日も早い景気回復を期待する。

○流通秩序の改善、サービス向上の研究および人材育成に関する事業
○靴小売りの実態調査、従業員表彰、情報収集並びに配布事業
○業界関連団体(日本皮革産業連合会、全日本履物団体協議会、足と靴と健康協議会)との相互連絡および折衝
○関係官庁(経済産業省他)との相互連絡および折衝
○会員の増強
○国内商品市況をとりまく潮流の変化が市場関係者の戸惑いを生んでいる。国際的な原価高や円安の中で続いたコスト転嫁型の値上げはコロナ禍

靴小売業売上高ランキング 2023

(FW誌1月号より)

順位	企業名	本社所在地	決算期	売上高(百万円)		純利益(百万円)		店舗数
				当期	前期	当期	前期	
1	(株)エービーシー・マート	東京・渋谷区	23.2	197,982	169,779	24,469	26,286	1,074
2	(株)チヨダ	東京・杉並区	23.2	73,676	70,496	△1,892	△3,216	921
3	(株)ジーフット	東京・中央区	23.2	64,679	65,292	△5,493	△7,156	704
4	ダイアナ(株)	東京・渋谷区	23.3	14,807	11,986	—	—	—
5	ヒラキ(株)	神戸市・中央区	23.3	14,288	15,199	—	—	—
6	(株)つるや	愛媛・松山市	23.2	12,890	12,010	—	—	—
7	(株)ダブルエー	東京・渋谷区	23.1	12,588	11,228	371	407	114
8	(株)ロコンド	東京・渋谷区	23.2	9,316	9,875	1,204	604	—
9	東京靴(株)	島根・松江市	23.8	9,258	8,702	—	—	39
10	(株)ステップ	大阪・北区	22.8	8,000	8,000	—	—	—
11	(株)リーガルリテール	千葉・浦安市	23.3	7,391	6,337	146	66	72
12	(株)サンドリームファクトリー	長野・長野市	23.1	7,203	7,513	163	136	30
13	(株)ベネクシー	東京・千代田区	22.12	3,940	3,940	—	—	—
14	(株)かねまつ	東京・中央区	22.7	4,042	3,904	—	—	—
15	(株)銀座ヨシノヤ	東京・葛飾区	23.3	3,755	3,190	—	—	—
16	(株)卑弥呼	東京・渋谷区	23.1	3,754	3,029	224	136	—
17	(株)ショービ	浜松市・東区	23.1	3,610	3,267	—	—	—
18	(株)靴のホッタ	愛知・清須市	23.8	2,793	2,695	—	—	36
19	(株)ビーンズ	福井・福井市	23.6	2,177	2,107	66	61	1
20	(株)ワシントン靴店	東京・港区	23.2	2,046	1,655	—	—	—
21	(株)テヅカ	宮崎・宮崎市	22.5	2,012	2,021	—	—	28
22	(株)靴の尚美堂	鹿児島市	22.9	1,752	1,675	—	—	—
23	(株)Welleg	香川・高松市	23.2	1,745	1,619	—	—	—
24	(株)アマガサ	東京・台東区	23.1	1,393	1,568	—	—	—
25	マレーマレー・ジャパン	神戸・長田区	22.9	1,285	1,164	—	—	—
26	(株)鈴忠	東京・豊島区	23.2	1,050	1,000	—	—	9
27	(株)AKAISHI	静岡市・駿河区	22.12	948	87,229	29	47	2
28	(株)オージー	大阪・浪速区	23.1	817	931	—	9	—
29	(株)PRAIT	東京・中央区	23.2	805	999	—	—	—
30	(株)ワタナベ靴店	新潟・長岡市	22.6	766	750	—	—	—
31	(株)ジェイベ	福井・坂井市	22.7	750	830	—	—	—
32	(株)菅原靴店	岩手・盛岡市	22.7	748	621	—	—	—
33	(株)橋文	青森・八戸市	22.9	718	821	—	—	5
34	東北リーガルシューズ(株)	千葉・浦安市	23.3	654	610	8	13	8
35	(有)シユーズ・モリ	岩手・盛岡市	23.1	520	500	1	—	9
36	(株)まつや	和歌山市	23.2	500	501	—	—	—
37	(株)亀田屋本店	ひたちなか市	22.1	500	480	—	—	—
38	(株)ジェリコ	大分・中津市	22.5	490	390	—	—	—
39	(株)タウン・タウンシューズ	岡山・岡山市	23.8	478	456	8	13	13
40	(株)サンテングヤ	福岡・久留米市	22.8	450	450	—	—	—
41	深瀬商事(株)	札幌・北区	23.1	435	370	—	—	5
42	(株)イバラキヤ	大阪・高槻市	22.8	381	321	—	—	6
43	(株)ヌル	大阪・北区	22.7	322	272	—	—	—
44	(株)つるや	高知・高知市	22.8	219	215	—	—	—
45	(株)岩井信六商店	札幌・中央区	22.12	188	200	—	—	5
46	(有)エス・シー	岡山・姫路市	22.4	87	87	—	—	—

2023年
靴小売売上高ランキング

F W 誌(フットウエア・プレス誌)では、2023年版の靴・バッグ・資材の売上高ランキンを1月号に発表した。全体の動向はすべての業種・業態で増加した。2022年23年の決算期は、依然としてコロナ禍の状況下に

「小売り」について掲載する。
『靴小売』

46社平均8.8%増

都心立地の店も好調

靴小売業46社の売上げは合計4800億円、前期比8.8%増と、前回はすべての業態で前期を上回った。靴卸、バッグ製造、造・卸、資材は2ケタの伸びている。ここでは、「靴

いSCに出店する小売店はさらに伸ばす結果となつた。コロナ禍の中で好調を維持しているEC主力の企業は、依然順調に販売を伸ばしているほか、実店舗での販売が主力の各社もEC部門の売上率を伸ばしている。一方、前期割れの企業も2ケタ減少の企

業は減っている。コロナも終息しつつあり、旅行需要でのレザースニーカーなどが好調。また、猛暑でのサンダルを中心夏物が好調に推移したことが、売上増の要因に挙げられる。(FW 1月号)

